

2024年3月26日発行

2023年度第3号

三育だより

学校法人三育学院 東京三育小学校

〒177-0053 練馬区関町南2-8-4

TEL 03-3920-2450

URL <https://www.tokyosaniku.ed.jp/>



校訓「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。」(口語訳聖書)

「ライフスキル：他者と共に生きる力」 学校長 平田 理(ひらた まこと)

『母という呪縛 娘という牢獄』(斎藤彩 2022 講談社)は、2018年3月滋賀県の河川敷で発覚した殺人事件の取材本です。受験世代を抱える家族には母娘の在り方を痛烈に考えさせ、衝撃的な事件性と共に話題となりました。母親を殺害した直後に娘がTwitter(現在X)に発信した「モンスターを倒した。これでひと安心だ」は、しばらく放置されました。母親の生命を奪うことによってしか、心からの安堵を得られなかった娘の「心の叫び」に、世間は目を向けず、家族や親族さえ耳を貸せなかったのです。この実話は残忍な家族内殺人や家庭内虐待を扱った内容では無く、極端な結末ではありますが、どの家庭にも起こり得ることであり、「家族の在り方」を問われたかのようなのです。医学部受験に9回失敗した主人公が母親と過ごした壮絶な時間は、本当に「実話」なのかと疑いたくなるほどです。極端な強要と抑圧、制限と束縛、比較や中傷は、「約束された将来」と「自己肯定感を育みたい」と願う母親の真逆の干渉ですが、どんな親でも愛情という名を着た「モンスター」に豹変する可能性を教えてください。

この母娘が忘れた、或いは気づかないようにしたことは、他者(娘・母)を受容することでは無かったでしょうか。母親が人生をかけたかのように、娘を厳格な英才教育や早期教育で「仕上げていく」過程は、病的で極端です。「我が家はあるここまで追い詰めていない」という感想を持ちたくなるのですが、母娘の信頼という土台を壊して、子どもの領域に強硬に侵入する母親の姿勢は、程度の差こそあれ、「普通の家族」に起こるのかも知れません。他者との比較と優劣の評価を中心に据えた極端な束縛は、娘を追い詰め続けました。混沌とした激しい時代を「生き抜く訓練：サバイバル・スキル」という「母親にとっての正論」である娘への極端な「教育」は、さながら戦時下の妄信的な教練のようです。

時代の変化に適応し、自分自身や家族の現実を受け入れることは時に辛いことで、大きなエネルギーも必要ですが、自分以外の他者の在り方を受け入れ、認め、共に生きるためには、「余白」を広げる必要があります。聖書は「余白」を神様に置きなさいと勧めます。

「思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。」(ペトロの手紙一 5章7節)

他者を押しやってでも自分を優位に置きたい時代だからこそ「他者と共に生きる力：ライフスキル」を養う必要があるのです。



Tokyo San-iku Elementary School

Since 1898

東京三育小学校

校内行事報告

学 習発表会

今年度は全学年の学習の成果を保護者の方々にご覧いただくことができました。終わった後の子どもたちの感想です。「たくさんの方がいて驚いて、口の中がかさかさになったけど、頑張りました」「始まる前はとても緊張したけど、発表の時はわくわく、楽しい気分になりました」「お祈りもしたし、先生も大丈夫って言うてくれたから練習通りにできました」「家でたくさんほめられました。来年も楽しみです。」保護者の方には学びだけにとどまらない成長を喜んでいただき、子どもたちにとってもこの経験がまた大きく成長する時となりました。



芸 術鑑賞会

本校体育館において、劇団「風の子」による「ソノヒカギリ美術館」を観劇しました。通常、演劇は観るだけですが、この度は演者の問いかけに応えたり、子どもや先生も舞台上に上り、劇を進行するという初めての経験をしました。あっという間の1時間で、大いに楽しみました。



卒 業祈禱週

3月4日～8日の祈禱週は、卒業祈禱週で、総題「26冊の物語」テーマ聖句：詩編37編23節「主は人の一歩一歩を定め 御旨にかなう道を備えてくださる。」でした。これは6年生みんなを選んで聖句です。一人ひとりが「祈りの力」「神様の導き」「神様からの恵み」「校訓を実現する者になりたい」等、全校児童の前で神様からのメッセンジャーとして力強く証ししました。昼休みには「祈りの時間」をもち、特別に祝福された1週間になりました。



卒 業生を送る会

恒例の5年生が企画・実施する「卒業生を送る会」。そのため3学期の5年生は大忙しでした。お世話になった6年生のために、1月から飾りつけの準備、6年生へのインタビュー、プログラムの組み立てとシナリオ作り、教職員の卒業生へのメッセージの手配など、一人ひとりが多岐にわたる役割を担い、協力して創り上げました。また1～5年生が準備したプログラムには6年生への感謝と、大好きな思いがいっぱい詰まっており、6年生の涙がこぼれました。



卒 業式

3月17日(日)第75回卒業式を挙行了しました。今年は保護者のご参列の制限もなく、また全学年が参列し、卒業生26名を礼拝をもって送り出しました。卒業祈禱週と同様に「詩編37編23節」を卒業式のマottoとして掲げました。神様が与えてくださった新しい場所で、これからも神様を愛し、祈り求め、人々の必要に喜んで応える者として自らを輝かせ、周りを温かく包む光となってほしいです。会衆一同、卒業生の歩みを豊かに祝福し、世の光となりますようにとお祈りしました。卒業式終了後は在校生全員が卒業生と挨拶をし、名残惜しい時間となりました。



3学期も皆様のお祈りに支えられ、無事に終えることができました。ご支援を感謝いたします。また、26名の卒業生も神様の祝福のうちに巣立ちました。4月4日まで春休みとなります。2024年度もどうぞよろしくお願いいたします。